

# 平成30年度 第2回 学校教育相談研修会報告書

## (静岡県高等学校教育相談教育研究会 冬季研究大会)

学校教育相談専門委員 浜松修学舎高等学校 夏目雅世

講師 矢野 智 氏 (臨床心理士 スクールカウンセラー カウンセリングルーム・ルウト代表)

演題 「いろいろなあらわれを示す子への対応。具体的な例とともに」

日時 平成31年1月22日(火) 14:00~16:30

場所 アクトシティ浜松「62 研修交流室」

参加者 18名

講師の矢野先生は、スクールカウンセラーとしても静岡西部地区の学校を多く担当され、子ども達はもちろん、保護者、教職員からも厚い信頼を得ている。今回、様々な問題を抱える子ども達に対し、学校現場が共通理解を図りながら問題解決にどうつなげていくか、基本的な考え、対応等について、具体的な事例を通してわかりやすく講演された。

### 1)人間の能力について

人間は年齢相応の発達をし、「この年齢であればこのくらいはできる」と期待される。しかし必ずしも望ましい方向へと進むとは限らないし、発達の全般的、部分的に凹凸が出る場合もある。認知能力の高い部分と低い部分の差が大きい人のことを発達障害と言う。

「高校生になっても〇〇ができない」等と大人はよく言うが、「できる」のに「しない」のか、「できない」から「していない」のか…。

生徒の持つ能力をいろいろな角度から考え、「できないからしていない」ケースも多々あることを忘れてはならない。本人の困り感や苦手なことを見極め対応することが必要になってくる。

学校現場において、生徒が課題や提出物を出さない場合、「できるのにしない」と教員は思い込みがちである。しかし、認知に凸凹がある場合は「できないからしていない」ケースもあることを忘れてはならない。子ども達の辛さを理解し、的確にサポートすることの必要性を痛感した。

### ◎年齢相応の程度に足りない場合、学校で問題となることが多い能力

- ・物事を整理する力 ➡ 実際の「物」を整理整頓する力が足りない
- ・先を見通す力 ➡ 次に何が起こるか考える力が足りない
- ・予定を立てる力 ➡ 順序を考えて物を進める力が足りない
- ・他者の気持ちを考える力 ➡ 「共感性」

\*共感性が低いと言われる子ども達の多くは、自分の気持ちを感じる力が弱いから、人の気持ちも分からない

いじめ、不登校、発達障害、虐待等、学校現場は多くの問題が山積し、教師に求められる役割も多様化している。学校現場はどこも疲弊しているのも事実である。しかし、様々な問題に対し、目に見える出来事だけを見るのではなく、まずは子ども達の困り感の根本はどこにあるのかをしっかりと見極める必要があることを改めて痛感した。

また、講師も「共感性」の重要性を強く述べていたが、子ども達ばかりに押し付けるのではなく、まず

は大人である私たち教師が、相手の立場を思いやる他者への共感的態度を再認識し、子ども達に対応していかなければならないと感じた。